

介護保険の改悪ストップ 高齢者の生活の質を悪くさせない

今、島本町では、第6期島本町保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定中です。この案に対するパブリックコメントが、12月15日から1月13日まで募集されました。

日本共産党町会議員団では「国会ですらに医療・介護の総合法が成立し、介護保険のサービスや保険料の、改悪が示さ

れている。住民に対しては、パブリックコメントだけでなく、きちんと説明することが必要」と説明会などを求めてきたところでは。

12月議会の補正予算審議で町議団は、「福祉ふれあいバス」は、手押し車でも楽に乗れる「低床型」の車両にする、土日も運行する、などの改善を求めました。

過密・待機児を解消し 今年こそ安心・安全の保育所を



↑町立第四保育所は（1月1日現在）認可定員150人のところ入所児童数は237人、他の保育所も定員をはるかに超える入所状況です。

同時に待機児童も40人（厚労省基準・求職活動中の待機を除く）に達しています。

定員200名の民間保育園が新設され、今年3月の開所時には待機児童の受け入れを、来年度からは本格的な入所が始まります。

しかし、これからも保育所を希望する親は増えても減ることはありません。

「子ども子育て支援事業計画案」には、来年度すでに入所希望数が定員を上回ることがはっきり書かれています。そして、今の「認可定員を超えた過密な」入所児童数をそのまま認可定員として変更する

ことも検討するとしています。また、島本の「子ども子育て会議」には保育所・学童保育職員が入っておらず、現場の声を会議に直接反映させることが必要です。

働く親の子育て支援・子どもの生活の場 「学童保育室」の待機なくそう

国は親が働いているなど留守家庭児童対象の「学童保育室」を、全校児童対象に放課後の児童が安全に過ごすために行われる「放課後子ども教室」と一体に進めることを考えています。しかし、保育に欠ける児童の放課後の「生活の場である学童保育室」を、全く性質の違う放課後子ども教室と一体にすることには無理があります。

島本町の学童保育室では当面4年生までの受け入れ、そして年度途中でも待機となることなく入室できる体制、などの改善が急務です。施設、設備の補修、備品整備など、学童保育室は学童保育室としてしっかり改善・充実させることを求めます。

「公共施設のあり方」「広域行政・連携」 議論を本格的に始めよう

～ 今こそ議会で「広域行政・連携」検討機関の設置を ～



住民ホール解体着工へ

アスベスト除去を含めた1億768万円の工事請負契約が、12月議会で全会一致で可決。工期は約1年、工事車両が、頻繁に通学路を通ることになり、学童保育下校時間帯も含め、安全対策が必要です。町の「開発指導要綱」を守り、工事説明会の開催が必要であると、議会からの多くの指摘を受け、本工事は「住民説明会」を開いたうえで、着工します。



さら地にし、借地を返還する町立プール

古くなったら「廃止・解体 ありき」でいいのか？

住民ホール、プールとも解体後の再建のメドはたっていません。

公共施設のあり方について、全住民対象に本格的な議論を始めるべきです。

「住民ホールあと地」は 高槻市東上牧の町「し尿処理」

施設は老朽化と、周辺自治会より撤去の要望も出ており、2013年度から「町内で建設」の方向で調査を開始しました。

その後町長は昨年6月の議員全員協議会で「調査結果として、住民ホール跡地約3000㎡のうち、一部900㎡を建設候補地に」と表明、高槻市に報告した後、近隣住民への説明をすすめてきました。一方で、し尿処理量は確実に減少していくことから、「広域での処理を考えるべきだ」「住民ホール跡地は他の有効活用を」という意見が寄せられています。

検討・調査機関設置を申し入れ

党町議団は、し尿中間処理施設の町内建設について、全住民対象に説明会を開くべきだと求めてきました。さらに1月16日に、会派人びとの新しい歩み、外村敏一議員と共に「広域行政等検討・調査機関の設置要望」を議会に提出しました。

～ 水無瀬「駅前まちづくり」 議論の場づくり 急げ～

既に駅前の、水無瀬自治会集会所等に使用していた建物は解体、さら地にされています。跡地活用には周辺自治会や、近隣商店街からも要望や提案が出されまし